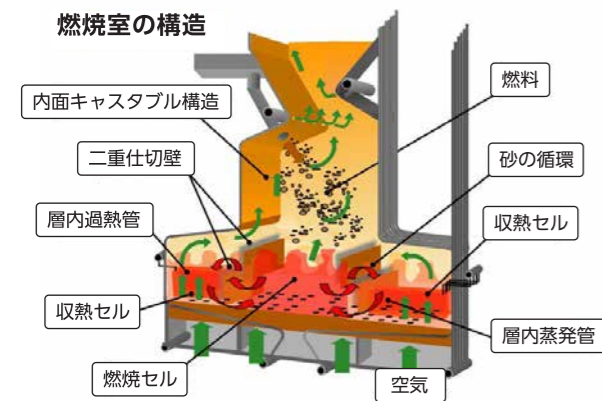


韓国・大田市向け 内部循環流動床ボイラを受注



川崎重工は、韓国のエンジニアリング会社であるGS Engineering & Construction社(韓国・ソウル市)より、同国大田市向けにRDF(Refuse Derived Fuel)を燃料とする内部循環流動床ボイラ1缶を受注しました。この内部循環流動床ボイラは、大田市が廃棄物の有効利用を目的として新設予定の廃棄物利用エネルギー施設に組み込まれるもので、毎時約50tの高温・高圧蒸気を発生させ、発電や熱供給に使用されます。なお、本施設は2017年中に運転を開始する予定です。

川崎重工の内部循環流動床ボイラは、腐食性物質や環境汚染物質を含むごみや廃プラスチックを原料とする固形燃料のほか、さまざまな廃棄物やスラッジなどを燃料にすることができます。本ボイラは、流動床部を燃焼セルと取熱セルに分け、流動空気の流れにより流動媒体を燃焼セルから取熱セルに循環することを特長としています。これにより燃焼ガスと流動媒体の流れが分けられ、取熱セルに設置した伝熱管により層温度を制御するとともに、塩素等の腐食性ガスによる伝熱管の腐食を防ぐことで、高効率・高信頼性を実現しています。

川崎重工史上最大、 可搬質量1tの超重可搬ロボット 「MG10HL」を新発売

川崎重工は、可搬質量1tの超重可搬・高剛性ロボット「MG10HL」を2015年12月2日より新発売します。昨今、自動車や船舶、鉄道車両、航空機などの大型製品のほか、1tを超える重量の鋳造品・鍛造品ならびに資材・建材など、超重量物の搬送ニーズが高まっているため、川崎重工はこれまでの最大機種であるMシリーズ(最大可搬質量700kg)に加えて、汎用用途に適用できる超重可搬ロボット「MG10HL」を新たに開発しました。

今回発売する「MG10HL」は、最大リーチ4,005mm、上下ストローク4,416mmの広い動作範囲を持ち、最大1t(オプションで1.5tまで対応可能)の重量物のハンドリングが可能です。第1軸から第3軸の各軸にモータを2個ずつ配置することで、従来機種とのモータ交換性を確保しつつ、高トルクおよび重可搬質量を実現しました。また、第2軸と第3軸の駆動機構にボールネジを採用することにより、カウンターウェイトを使用せずに重可搬質量を実現しているほか、従来にない剛性を生かし、耐高反力性が求められる用途への活用が期待できます。さらに、ロボット本体を軽量・コンパクトに仕上げることで設置レイアウトの自由度を高め、対象物の変更に柔軟に対応できる汎用性にも優れています。



世界最大級、沖縄電力向け 4サイクル中速ディーゼル 発電設備を引き渡し



川崎重工は、沖縄電力(株)に、世界最大級の単機出力18MWのディーゼル発電設備を引き渡しました。

本発電設備は、石垣第二発電所6号機の増設工事として2013年6月に受注したもので、2011年8月に納入した石垣第二発電所5号機ディーゼル発電設備と同じく、4サイクル中速ディーゼル機関を動力源としています。川崎重工は、発電設備の設計、機関・発電機・配電開閉装置・制御装置の供給および据付、建屋および土木の建築工事からなる発電所建設工事一式をフルターンキー方式で請け負い、このたび引き渡しを完了しました。

石垣島では、リゾート産業の発展とともに電力需要が堅調に伸びており、沖縄電力はこの電力需要の増加に対応するため、電源設備の増強を図っています。当地では既に川崎重工が納入した大型ディーゼル発電設備4基(出力10MW×3基、18MW×1基)のほか、ガスタービン発電設備2基(出力5MW)が主力機として順調に運転中であり、今回引き渡した18MWの発電設備は、これらとあわせて石垣島での電力供給に貢献します。

最新の技術・製品情報をお届けします



HOT TOPICS

ワシントン首都圏交通局向け 新型地下鉄電車220両を追加受注



川崎重工は、ワシントン首都圏交通局(WMATA: Washington Metropolitan Area Transit Authority)より地下鉄電車(7000系)220両を追加受注しました。契約金額は約400百万ドル(約480億円)で、リンカーン工場(米国ネブラスカ州)で製造し、2018年から2019年にかけて順次納入する予定です。

今回の受注は、2010年に受注したベース契約64両に付随する最後のオプション契約220両が行使されたものです。これにより7000系の受注総数は748両、契約総額は14.7億ドル(約1,760億円)になります。このオプション分220両は、既存車両の置き換えを目的とするもので、オプション車両納入後はWMATA保有車両の半数以上が川崎重工製になります。

7000系地下鉄電車は、ダレス国際空港への延伸計画、老朽化した既存車両の更新計画ならびに、混雑緩和など旅客サービス向上計画に伴って導入される車両で、2015年4月から順次、営業運転に投入され、順調に運行されています。本地下鉄電車は、WMATAとして初めてステンレス鋼製の構体を採用するとともに、従来各車両に設置していた運転室を2両あたり1箇所へ減らすことで座席数を増加しています。また、デジタルコンテンツ表示装置やCCTVカメラ、情報伝送システムなど最新システムを備え、安全性はもとより信頼性や快適性にも配慮しています。

小松市向けごみ処理施設の建設および 運営事業を受注

川崎重工は、石川県小松市より、「小松市新ごみ処理施設整備事業及び運営事業」を受注しました。本事業は、同市がDBO方式[Design(設計) Build(建設) Operate(運営)]により発注するもので、川崎重工がごみ処理施設の設計と建設工事、川崎重工グループの特別目的会社「グリーンパーク小松株式会社」が20年間の運営業務を行います。

今回受注したごみ処理施設は、1日あたり110t(55t/24h×2炉)の処理能力を有するもので、独自の並行流焼却炉をベースとしたカワサキ・アドバンストローカを採用し、ろ過式集じん器(バグフィルタ)や排ガス再循環システムなど、高度な排ガス処理システムを設置することにより、環境負荷を低減します。また、焼却炉に高温高圧ボイラと抽気復水式蒸気タービンを組み合わせて高効率発電(最大発電量1,990kW)を行い、施設内の消費電力を賄うとともに余剰電力を売電します。



本施設の建設地は里山であることから、周辺環境との調和を重視したデザインに